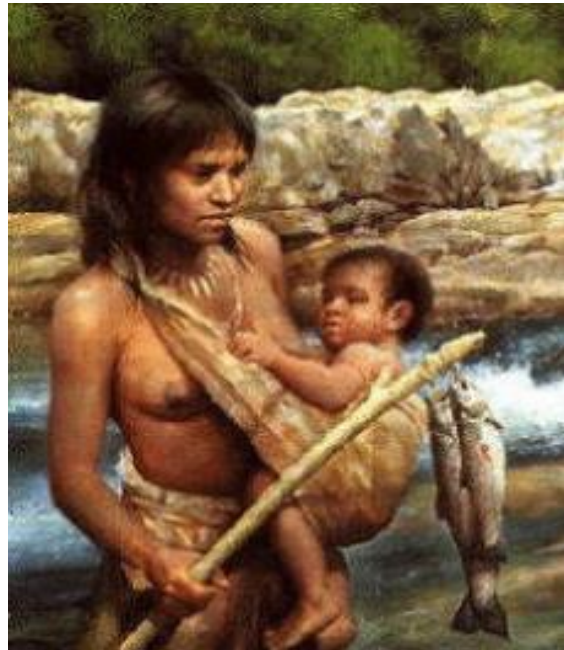


**「今、哲学しよう 一価値・意味・秩序一」
自然界の課題は科学が担い、
社会の課題は哲学が担う。**



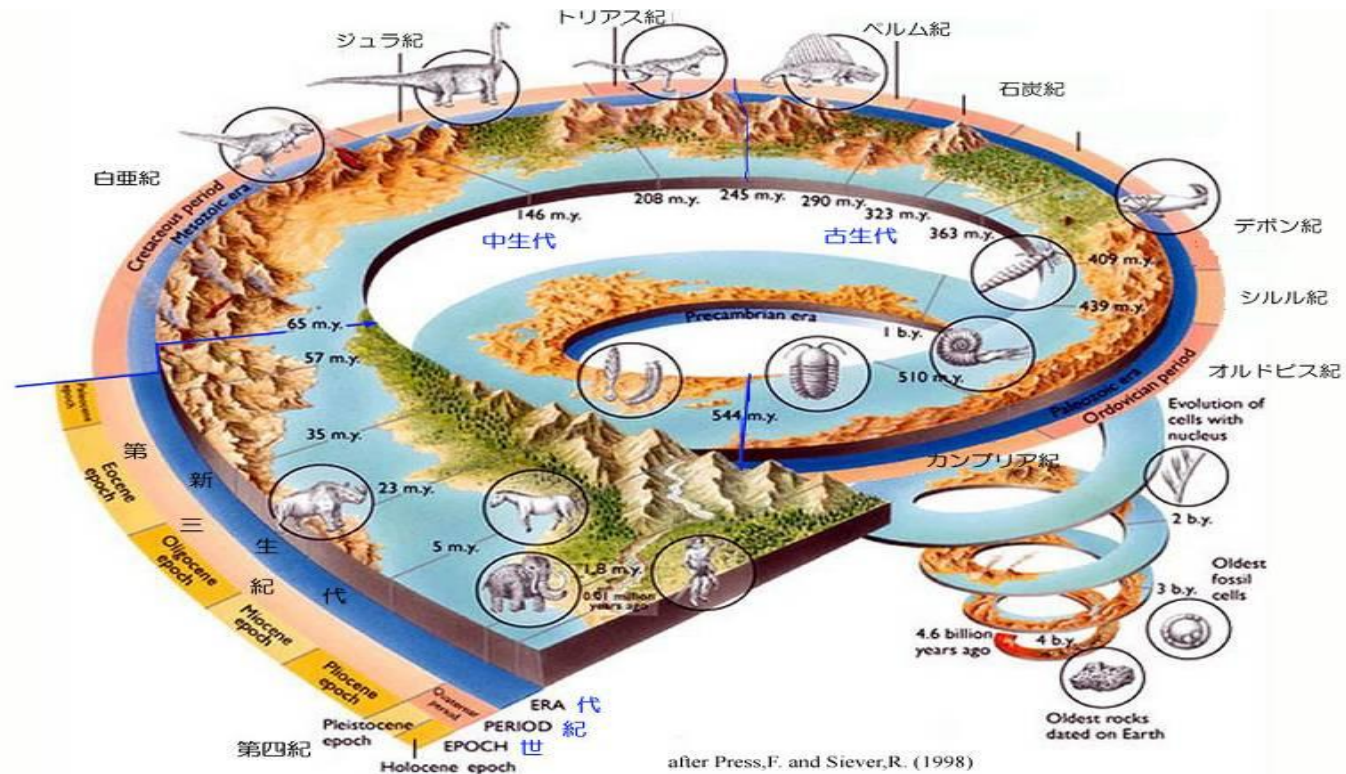
現生人類の共通の母と考えられる『DNAイヴ』想像図

伊豆ユネスコクラブ 代表幹事

小林 恵 智

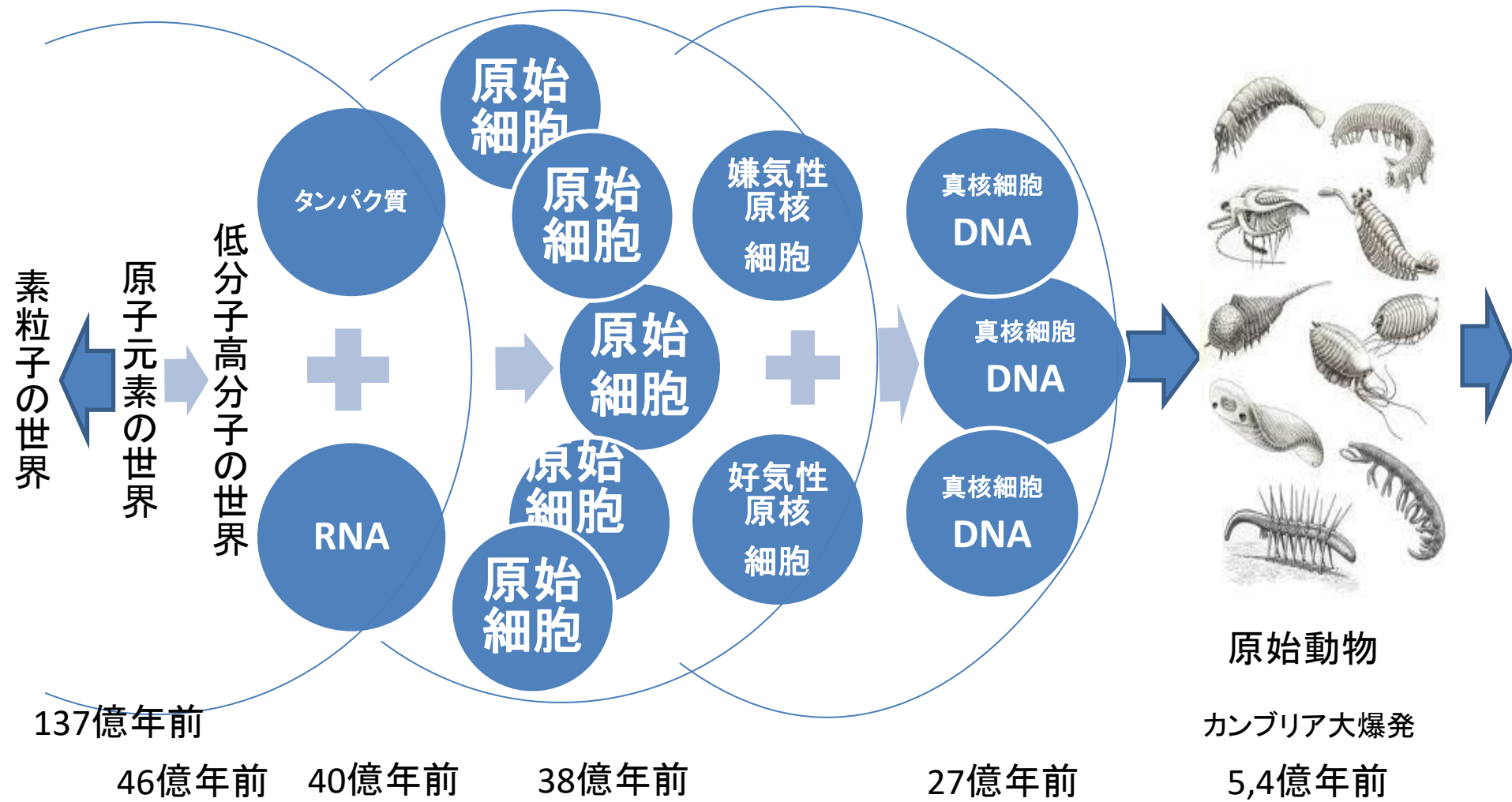
(教育学博士・経済学博士)

誰にも137億年の過去と恒久の未来がある



現在の宇宙は、137億年前に出来て、1000億年後の消滅する1000億個の銀河から成り、その一つの129億才のなる1000億個の恒星から成る『天の川銀河』の一つである太陽系の第三惑星『地球』には、46億年の物質の歴史と、38億年の生命の歴史があり、現生人類には20万年の歴史がある。

空・無・物から生命へ、そして…



「平和の鐘」

銘文 INTERNATIONAL FRIENDSHIP / PEACE / PERRLHARBOR DECEMBER 7 1941 /
VJ DAY SEPTEMBER 2 1945 / HIROSHIMA AUGUST 6 1945 / NAGASAKI AUGUST 9 1945



在米日本人会と退役軍人会有志が、戦後50年を機会に資金を出し、
平和を願う要人に謹呈し、4つの記念日に打つ反戦を誓うように求めた
(アメリカ製)

「今、哲学しよう 一価値・意味・秩序一」
自然界の課題は科学が担い、
社会の課題は哲学が担う。

戦争と平和、科学(文明)と哲学(文化)

2018年11月15日

伊豆 ユネスコクラブ 小林 恵 智

はじめに

●哲学の定義は、哲学者の数だけある。

『哲学』とは、行為として『根本的な問い』に答えを出すという事は本より、日常の浅慮の結実として表面的な意味や意義など、鵜呑みにし、思い込んでいる「あらゆる概念、見解、意味、意義、価値」を自ら排し、原語(基となる表現)を徹底的に分析し、言明の真の意味を立証し、「究極の結語」へ導く手段であると、私は考える。

例えば、戦争と平和、幸と不幸、善と悪、正と否(誤)などの基準となる状態や現象は、慣習的に鵜呑みにされているが、それらをゼロベースから問い直し、『事実と論理』のみを拠り所に、その本質・意味を再定義し、その現象の根本的な原因を求め、現代的行為である経済・経営・教育・生死といった概念と関連付け、解釈された現実の素因である「事実」から目を離さず、「世界のあるべき姿」に向けて為すべきことを立案し、高く掲げ、絶えず反芻しながら行動し続けられる力の源泉こそが、「哲学すること」の目的だと私は考えている。

●感じる→思う→考える→哲学する

●『哲学する事』、それはあらゆる行為を動機づけ、心豊かな人生の「原動力」である。

“平和”について哲学しよう！

●人間の「足るを知らない過大な欲求(望)」が、羨望を通じて他者との対立を生み、競争が紛争へ、そして戦争へと発展し、報復心を潜在化させくりかえすのが戦争の真実である。

●基礎科学の進歩と己事究明の習慣化を通じ、偏った権力を排し、『自利利他』の日常的な実践なくして、戦争や紛争、似非の平和(繁栄)を超えた真に「安寧なる世界」は築けない。

「戦争を放棄する」だけでは不十分であり、
「戦争を根絶させる」のが私たちの使命だろう。

平和を希求し願うだけではなく、反戦に繋がる
日常活動を実践しよう。

●我々は人間は、自然や他の生命の支配者ではなく、森羅万象の一部としての「現象」であり、物理的・心理的・社会的破壊は『自刃行為』であり、文明と文化の進歩の調和こそ“あるべき姿”である。

●自然の価値を机上の空論ではなく、体験を通じて自立し、自らの生きる智恵の源泉として、森羅万象と己の分離という二項対立から自らを解放しなければ、誰でも例外なく己の人生の唯一の主人公である己を成長させることはできない。

『“戦争”をしない、させない心』を育てる。
それが、我々がすべきと考えている事。

伊豆ユネスコクラブでは、『自然との共生体験』の日常化こそが、生命と自然(環境)を大切に作る心を育み、自然を破壊せず、等価交換的利用をする技術を身に付けるため、自然と戯れる場所・機会・技術を提供し続けます。

伊豆ユネスコクラブの宣言

私達は、この地球を宇宙の極小の一部でありながら、全人類の共有財産である乗り物と位置づけ、極度な資源依存の生活様式を改め、自然と協調し共生する実感が他(者)との消耗戦に繋がる「競争」を成長の糧としている現代を見直し、「自分経営」、即ち、己の個性・資質(強み)を発見し、自覚して活かし、自らを日々の営みを通じて成長させ続け、人生の明確な目的、具体的な目標を掲げ、持続可能な「紛争や戦争の無い」公正で公平な社会を実現させようとする志、意欲育み、森羅万象との共生に関する知識や技術を身に付けさせ、それを世界に普及できる人間を自ら率先して育ててゆきます。

<http://isunesco.com>